

第7 2回日本PTA全国研究大会川崎大会 地方協議会活動事例推薦用紙

ブロック協議会名	中国ブロック PTA 協議会	ブロック協議会 会長名	橋本 和博
被推薦 地方協議会名	広島市 P T A 協議会	被推薦 地方協議会会長名	内海知己

推薦した理由を教えてください（川崎大会のスローガンに照らしてみても可）
※本欄はブロック協議会会長が記入をお願いします。

第49回（平成31年度）中国ブロック研究大会広島市大会において、実践発表としていじめ問題への取組み（中学校生徒会報告）・市P協事業「いじめ問題大人サミット」を行った。また、第76回（令和3年度）指定都市PTA情報交換会においてもいじめ問題への取組と情報交換会を行った。この経緯から、全国から川崎市へ集うPTA会員の皆様にいじめ問題への取組を発表し活動を拡大していくきっかけとなることを願っている。

活動事例の名称
いじめ問題子どもサミット

1. 活動の内容を紹介してください

いじめ問題を、子ども大人の双方から学び、どうしたらなくなるのかを考える活動。（10年継続中）
今年度は市内の中学生約120名が集会し、いじめのロジックを学び、いじめの発見や対応など子どもたちがそれぞれに深く考察しグループで討議した。学習用タブレットを持参し、各自の意見をチャット形式で発表し、参加者が自由に意見をいえる環境を提供した。討議内容はマインドマップに記録し、後日披露した。当日はYouTubeライブで配信し、一週間のアーカイブを残した。

2. 何故その活動に取り組んだのか背景（課題等）や目的を教えてください

市内中学生の自死をきっかけに活動を始めた。大人は、今の子どもたちの思いを通していじめの現状を学び、子どもは加害者被害者傍観者の心の動きを知ること、どうやったら救済者になれるのか、また救済するために何が必要なのかを、集団心理を利用しながら道徳心と共に思考するという目的。
またオンラインで同時配信することで、多くのPTAやPTA0Bにも閲覧し意識を向けてもらう目的。

3. 活動に協力してくれた「PTA以外」の団体や企業とのつながり（ご縁）について教えてください

広島市中学校長会に協力いただき、夏休みの開催をスムーズに行った。また、オンライン配信、タブレットを使ったチャットルーム、マインドマップ作成のこれらは、ITサービス会社バーナル（元市P協役員）の知識をお借りした。会場のスタッフはPTA0Bにも参加してもらった。広島市長には長年のいじめ問題の取組みについて昨年報告を行っており、令和5年度の子供サミットの報告は1月に面会して行った。

4. 活動を通して貴協議会の役員や理事にどのような変化がありましたか。また、貴協議会に所属する学校PTAの会員にどのような変化がありましたか。

残念ながら子どもたちの自死はあるが、一人でも多くの子どもや大人が真剣にいじめ問題に思いを馳せる一助があると信じている。ウェルビーイングを誰しも望んでいるが、明確にその方法を、役員やPTAが活動を通して意識し始めていると実感する。PTA活動の存続や意義について、高い意識を広島は持っている。